

イチイヒメハマキ (別名 イチイハマキ, マツチビハマキ)

早春にイチイの葉を糸でつづって食べるイモムシ (幼虫)。最大長約11mm。体は太く、黄白色で背中がやや赤い。頭部は淡い茶色、そのすぐ後の背面は黒い。幼虫は葉の中身だけ食べるので、食べられた葉はうす茶色になる。

庭木などで多発することがある。

【学名】 *Coenobiodes abietiella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州; 中国。

【生態】

宿主：イチイ, トドマツ。

年1世代。幼虫は葉の中身だけ食べ、食べた葉を糸でつづり合わせて巣にする。巣や食べ痕は5月上旬頃から目立つようになる。幼虫は5月中旬には地上に降りて、落葉中などで蛹になる。成虫は6月上中旬に出現する。

【被害と防除】

庭木や街路樹のイチイに多発することがあるが、実害は少ないといわれている。防除は普通必要とされない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

イチイヒメハマキ hamaki/itiihime/kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/22.